

2017 アートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクト 報告書

日本学校名 [多摩市立東愛宕中学校] 担当教諭名 [大塚 雄史] (美術部 16名)

相手国・地域 [フランス]

海外学校名 [Collège La Loge des Bois] 担当教諭名 [Thierry Lambert]

■実施教科・時間数について教えてください。

	教科	単元名	時間数
アートマイルに関連した 実施教科・時間数	部活動	国際交流「共に生きる世界を目指して」	60

■作品に込めた想いについて教えてください。

題 (テーマ)	"We live together. Handicap can make us stronger."
メッセージ (相手と想いを合わせて 世界に発信したいメッセージ)	2020年の東京、2024年のパリでのパラリンピックに向けて、障がいについて理解を深め、単に助けることを考えるのではなく、パラリンピックのアスリートから勇気をもらい、障がいの有無に関わらず共に生きるために協力していこう。



■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
パラリンピックについて調べたことをきっかけに、生徒は障がいに対する理解を深め、助けることだけが大切なのではなく、障がいを正しく理解し、同じ人間として向き合っていくことが大切であることに気がついた。このような学びを通して、海外の中学生との交流というのではなく、同じ中学生として関わっていくという意識が高まった。	部活動の中でアートマイルに取り組んでいるが、より多くの生徒が関わる取り組みとしていくことが必要である。そのためには総合的な学習の時間に取り入れたり、他教科の協力を得ながら横断的な指導を行ったりすることで学校全体で取り組む体制を整えることが必要である。

■アートマイルに取り組む前と比べて相手の国・地域や世界に対して意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
異なる文化をもつ中学生との交流には驚きや戸惑いを感じていたが、次第に同世代の学生との交流という意識に変化をしていった。文化や考え方の違いを体験したことで、自分たちの常識に対して、考える姿勢が出てきたことが大きな変化であった。	今回は今まで以上に教員同士が連絡を取ることができ、テーマの設定や指導内容を深めることができた。そして何よりも今まで以上に自分自身が交流を楽しむことができた。生徒が国籍や文化の違いを意識せず交流に取り組むようになったことと同様に、自分自身が国籍の違いなどを気にせず、同じ教員として取り組む意識に変わっていった。

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科等
出会い 自己紹介	9月	フォーラムを活用して、相互に自己紹介や学校紹介、地域紹介を行った。パラリンピックについての調べ学習を行った。	昨年度も参加した中学2年生が中心となり、1年生に自己紹介のアドバイスをしたり、調べ学習でも下級生を引っ張っていく様子が見られた。	部活動 12
共有 テーマ学習	10月	パラリンピックを中心にしながら、障がいに対する理解を深め、テーマについて提案を行った。個々にパートナーを設定し、調べた内容をフォーラムで共有した。	障がいについて、より広く、深く調べ、「見えない障がい」「障がい理解についての課題」などに意識が向かうようになった。パートナーを設定したことでより積極的に取り組むようになった。	部活動 12
融合 想いを形に ・メッセージ ・壁画デザイン	11月	テレビ会議を行い、直接交流をもった。メッセージや壁画デザインについてもテレビ会議やフォーラムで共有した。	テレビ会議やパートナーの設定の影響から、より積極的に調べ学習を行い、描くものをどうするか話し合う場面が多くなった。	部活動 12
創造 壁画制作	12月	壁画制作を開始し、制作途中の様子をフォーラムにアップした。また、それぞれのパートナーにニューイヤーカードを制作した。	インフルエンザのため制作に参加できない生徒が出たが、助け合いながら制作に取り組み、日本側の制作を完成させた。	部活動 16
評価 振り返り 自己評価	3月	フランスから完成した壁画が届き、自分たちの制作を振り返ったり、フランス側の制作した部分について感想を話し合った。春休みに2回目のテレビ会議を実施する予定である。	表現の違いや色の使い方の違いに驚いていた。また、自分の考えを言うことが苦手な生徒も、相手の取り組みに対して意見を述べる姿勢が出てきた。	部活動 8

■アートマイルでついた力について教えてください。

評価（5:とてもついた 4:ついた 3:どちらともいえない 2:あまりつかなかった 1:つかなかった）

学習目標・つきたい力	評価	先生が手応えを感じた場面・理由
自文化を理解する力	5	障がいに対する支援には、世界共通のもの、海外が進んでいるもの、日本独自のものがあり、日本での課題や良さに気付くことができた。
異文化を理解する力	3	戸惑いもあったとは思いますが、国籍や文化の違いを意識することなく、同世代として関わる態度が強かった。
情報活用能力 (収集・まとめ・発信)	5	パラリンピックに留まらず、障がいに対して、どのように支援をすれば良いか、どのような課題があるのかなどより深く調べることができた。
コミュニケーション力 (双方向・共感・英語)	4	相手を大切に思い、向き合う姿勢が出てきた。英語に関してはハードルが高かったようだが、少しでも言葉にしようとしていた。
批判的に思考する力 (客観的・論理的視点)	5	文化の違いについて、幅広い視点から考えるきっかけとなり、改めて自分たちが常識と考えていたものに対して、考え直す機会となった。
主体的に考え行動する力	4	昨年度から参加している生徒は、この2年間で大きく成長したと感じるが、初めて参加した1年生は、受け身的な姿勢が強かった。
他者と協働する力 (学級内・海外の相手)	5	調べ学習や構図、描く対象などについて、部活内で何度も話し合い、意見を共有する場面が見られた。
想いを言葉や形にする力 (メッセージ作成・壁画制作)	5	何度もスケッチしたり、描き直したりして、粘り強く制作することができた。
評価する力 (作品の鑑賞・学習の自己評価)	4	昨年よりも様々なことを考えながら取り組むことができたという感想が多かった。